

大谷 康子
おおたに やすこ
◆ヴァイオリン



©尾形正茂 / ©Masashige Ogata

2020年にデビュー45周年を迎えた、人気・実力ともに日本を代表するヴァイオリニスト。華のあるステージ、深く温かい演奏で聴衆に感動と喜びを届けており「歌うヴァイオリン」と評される。東京藝術大学、同大学院博士課程修了。在学中よりソロ活動を始め、ウィーン、ローマ、ケルン、ベルリンなどでのリサイタル、トロント音楽祭、ザルツブルク市などに招待され好評を得る。スロヴァキアフィル、シュトゥットガルト室内楽団など国内外の著名なオーケストラとも多数共演。また、1公演で4曲のヴァイオリン協奏曲を1日2公演行うという前代未聞の快挙を達成し話題となった。2017年はウィーンの本ムジークフェラインでリサイタルを開催。夏にはロシアの名門モスクワ・フィルの日本ツアーにソリストとして出演し絶賛を博した。キエフ国立フィルとは2017年以降毎年招聘され、2020年秋ウクライナで4年連続の共演となる。また、昨年5月には実力派ピアニストのイタマール・ゴランと全国ツアー(12都市)を開催し、同年8月21日にCDがリリースされた。CDは、ベストセラー「椿姫ファンタジー」(SONY)や、ベルリンでの録音による「R.シュトラウス/ベートーヴェン・ソナタNo.5(ピアノ:イタマール・ゴラン)」(SONY)も評価が高い。その他多数リリース。著書に「ヴァイオリニスト 今日も走る!」(KADOKAWA)がある。BS テレビ東京(毎週土曜朝8時より放送)「おんがく交差点」では春風亭小朝と司会・演奏を務め、八面六臂の活躍をしている。文化庁「芸術祭大賞」受賞。東京音楽大学教授。東京藝術大学講師。(公財)練馬区文化振興協会理事長。川崎市市民文化大使。高知県観光特使。(公財)日本交響楽振興財団理事。使用楽器は日本音楽財団所有のストラディヴァリウス「ウィルヘルミ」(1725年製)。

公式ウェブサイト<https://yasukohtani.com/>

◎ 大谷さんの使用楽器について

ストラディヴァリウス1725年製ヴァイオリン「ウィルヘルミ」

この楽器は、著名なドイツのヴァイオリン奏者アウグスト・ウィルヘルミ(1845~1908)によって所有・演奏されていたためこの名前が付けられた。法学博士でありアマチュア・ヴァイオリン奏者であったウィルヘルミの父親が彼のために1866年にこの楽器を購入した。ウィルヘルミの所有していた数多くのヴァイオリンのうち最も愛用されていた楽器だったが、公での演奏活動を休止して暫くたった1896年「演奏者として華のあるうちに引退したい」との理由で、50代の若さで楽器を手放した。

日本音楽財団はアントニオ・ストラディヴァリ(1644~1737)の他、ガッルネリ・デル・ジェス(1698~1744)によって製作された弦楽器の名器を保有している。それらは国籍を問わず無償で演奏家に貸し出され、演奏活動に役立てられている。

小山さゆり
こやまさゆり
◆ピアノ

東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て同大学ピアノ科卒業。同大学大学院修士課程修了。卒業生代表としてベヒシュタイン記念演奏会に出演。第31回全日本学生音楽コンクール全国1位。第9回かながわ音楽コンクール特選。ザルツブルクモーツァルティウム音楽院主催アカデミーコンサートに出演。浜離宮朝日ホールにてリサイタル開催。現在ソロ、室内楽、声楽、オペラの伴奏を中心とした演奏活動の他、大谷康子氏と共に全国各地での演奏会、テレビ出演、また病院、施設でボランティア演奏を行い、演奏会場に足を運べない人々へ音楽の喜びを届けている。



青少年のための ヴァイオリン コンサート

2020年
10月19日(月)
13時45分開演

境港シンフォニーガーデン
(鳥取県境港市中野町2050番地)

主催 公益財団法人鳥取県文化振興財団
公益財団法人日本音楽財団
共催 境港市、境港市教育委員会
助成 公益財団法人日本財団
出演 大谷 康子 (ヴァイオリン)
小山さゆり (ピアノ)
プログラム構成 大谷 康子

日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION



【プログラム】

- ♪ フリッツ・クライスラー
—— 「愛の??」「愛の???
- ♪ アントニオ・ヴィヴァルディ
—— ヴァイオリン協奏曲集 作品8「四季」から「?」第1楽章
- ♪ ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン
—— ヴァイオリン・ソナタ 第5番 作品24「春」から第1楽章
- ♪ ヨハン・セバスティアン・バッハ (ウィルヘルミ編曲)
—— G線上のアリア
- ♪ ヨハネス・ブラームス
—— ハンガリー舞曲 第5番
- ♪ 葉加瀬太郎
—— 「情熱大陸」のテーマ
- ♪ ジャン・アラール
—— 「椿姫ファンタジー」作品38から「乾杯の歌」
- ♪ パブロ・デ・サラサーテ
—— ツィゴイネルワイゼン

【曲目解説】

曲目解説：伊藤 裕太

ヴァイオリンが現在の形となって音楽に登場するのは16世紀以降です。日本の戦国時代です。ヴァイオリン属には4種類の楽器があって、音の高いほうから「ヴァイオリン」、「ヴィオラ」、「チェロ」、「コントラバス」の4種類があります。楽器に張ってある「弦」を「弓」で弾きます。

*楽器は何から作られているでしょう?

*弦は何でできているでしょう?

*弓は何でできているでしょう?

現存している一番古いヴァイオリンは1564年に作られたものとされています。日本では「永禄の変」という事件が起きた室町時代です。大谷康子さんが演奏する日本音楽財団所有のヴァイオリンは、1725年にイタリアのアントニオ・ストラディヴァリが作ったもので、以前の持ち主にちなんで「ウィルヘルミ」と呼ばれています。日本の江戸時代中期で第八代将軍吉宗が享保の改革を行った頃です。

◎フリッツ・クライスラー (1875～1962)：「愛の??」「愛の???

作曲家は自分が抱く様々な感情を音楽に込めて作曲します。クライスラーは1875年にウィーンに生まれたヴァイオリンの名手でもある作曲家です。彼が作曲した「愛の悲しみ」と「愛の喜び」はしばしば演奏される名曲中の名曲です。大谷康子さんは2曲とも演奏しますが、ふたつの演奏のどちらが喜びで悲しみなのか、感じてみてください。

◎アントニオ・ヴィヴァルディ (1678～1741)：ヴァイオリン協奏曲集「四季」から「?」第1楽章

作曲家は自分が見聞したり体験したりした世界を、音楽の中で表現しようとしています。ヴィヴァルディはイタリア生まれの作曲家で生涯に700曲以上も作曲しました。彼の多くの協奏曲は急・緩・急という3つの楽章からなる形式で書かれています。「四季」は春・夏・秋・冬の4曲からできています。それぞれの曲にソネットという詩が付いていて、四季の情景が音楽で描かれています。この頃の音楽は王侯のために作曲されました。皆さんも昔のヨーロッパの貴族になったような気分でお聴きください。

◎ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770～1827)：ヴァイオリン・ソナタ 第5番「春」から第1楽章

ベートーヴェンは2020年に生誕250年を迎えた作曲家でバッハ、ブラームスとともに3大Bとも呼ばれています。「春」はベートーヴェンが作曲した10曲のヴァイオリン・ソナタの中で5番目の曲で1800年～01年にかけて作られました。「春」という副題はベートーヴェンが名付けたわけではありません。曲を聴いた人が「春」のようだと感想を述べているうちに「春」という名前が定着しました。「春」を感じさせる曲、「春」を描く演奏とはどのようなものなのでしょうか?

◎ヨハン・セバスティアン・バッハ (1685～1750) (ウィルヘルミ編曲)：G線上のアリア

ヨハン・セバスティアン・バッハはヴィヴァルディとほぼ同じ時代に活躍した作曲家です。この曲の元の曲はバッハの管弦楽組曲第3番の第2曲「アリア」です。ヴァイオリニストのウィルヘルミが後年、ヴァイオリンとピアノで演奏できるように編曲しましたが、彼がヴァイオリンのG線だけで演奏することができたので、「G線上のアリア」と呼ばれるようになりました。本日、大谷康子さんが演奏するストラディヴァリウスをこのウィルヘルミが所有していました。彼はどんな演奏をしていたのでしょうか。

◎ヨハネス・ブラームス (1833～1897)：ハンガリー舞曲 第5番

北ドイツのハンブルクに生まれたブラームスは、日本の江戸時代末期から明治時代にかけて作曲活動をしました。1853年から伴奏者としてハンガリーを演奏旅行したブラームスは 로마の人たちの音楽の採譜を続け、それを21曲の舞曲集として出版しました。それが親友でヴァイオリニストのヨアヒムの手によりヴァイオリンとピアノに編曲されました。ブラームスがエジソンの頼みにより1889年にこの舞曲集の第1番を録音したものが、史上初のレコーディングとされています。

◎葉加瀬 太郎 (1968～)：「情熱大陸」のテーマ

ヴァイオリンが演奏されるシーンは、最近ではクラシック音楽のみならず、ポピュラー・ジャズ・映画・ゲーム・アニメなど様々なジャンルに拡大しています。それらも音楽です。葉加瀬太郎さんは東京藝術大学にヴァイオリンで入学した後、「クライスラー &カンパニー」のメンバーとして音楽界に登場。ジャンルを越えて人気を博しています。テレビ番組「情熱大陸」に出演した際に「Etupirika」を演奏したところ、番組のエンディングに使いたいとの申し出があり、合わせてオープニングテーマも作曲したという経緯があります。葉加瀬太郎さんは大谷康子さんの後輩で、大谷さんが司会・演奏を務めるテレビ番組にも出演しました。

◎ジャン・アラール (1815～1888)：「椿姫ファンタジー」から「乾杯の歌」

アラールはフランスの優れたヴァイオリニストであり作曲家でした。そして、次に演奏する曲を作曲したサラサーテはこのアラールの高弟の一人でした。この曲はイタリアの作曲家ヴェルディの代表作とも言える「椿姫」というオペラの有名な旋律に基づいて作曲された、とても技巧的な曲です。聴き手には楽しく、弾き手には難しい曲を難なく弾きこなす大谷康子さんの演奏をお楽しみください。今は楽譜が出版されていないので、日本では大谷康子さんしか演奏していないようです。

◎パブロ・デ・サラサーテ (1844～1908)：ツィゴイネルワイゼン

この曲はヴァイオリン曲としては最も多く演奏される曲のひとつです。1844年スペイン生まれのサラサーテはパリ音楽院で前述のアラールに学びました。多くの名ヴァイオリニストが活躍した19世紀にあってもサラサーテの存在は特別で、多くのヴァイオリンの名曲がサラサーテに捧げられています。ツィゴイネルワイゼンとは「ロマの歌」のことで、全体が哀愁、甘美、熱情、独特のリズム、多様な超絶技巧で彩られ、「歌うヴァイオリン」大谷康子さんは3800回以上もこの曲を演奏しています。